もうひとつの働き方を選ぶための情報誌

せれくと SELECT

2023. 2
February
No.90

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合　http://www.tokyo-workers.jp

私の仕事術

身体にも心にも、誰にもやさしい「恋ヶ窪ベース」

田村進二・田村晴江

東京・国分寺市恋ヶ窪にある自由空間「恋ヶ窪ベース」。老若男女が集い、介護予防体操や、おまつり。各種リハーサル、レッスン会場に。器楽等の演奏、コーラス練習もやっています。主催者の田村さん夫妻にお話を聞きました。

―始めたきっかけは?

進二　家業の精密器具の製造会社を閉じることにし、2017年に自宅に隣接していた工場から機械が運び出されました。がらんどうになったスペースをそのままにしてはおけないと、油で汚れた床を一人で洗浄し、ペンキを塗りました。

晴江　知り合いの子どもの演劇集団の指導者から、夏祭りをしたいから場所を貸してほしいと頼まれたんです。それで、急遽エアコンやカーテンをつけてここができあがりました。すると、オイリュトミー*をしたい人からも声がかかり、「空いてるから、いいよ」ってことになりました。

進二　それから半年くらいの間に、ミュージカルのリハーサル、リコーダー合奏、バンド演奏、子どもたちのクリスマス会などに利用され、そういう使い方もあるんだと言う感じで始まりました。　＊…シュタイナーによって創造された運動を主体とする芸術

―名前の由来は?

進二　所ジョージさんが楽し気に過ごしている「世田谷ベース」に倣って「恋ヶ窪ベース」です。「国分寺ベース」にしなかったのは、所さんが国分寺に来た時、命名に困るだろうと思って、ニッチな「恋ヶ窪」を選びました（笑）

晴江　高齢の母（2022年、101歳で逝去）と一緒に暮らしていたので、旅行に行くことなどはできなかったんです。でも、私たちはここにいるだけで、いろんな人がやってきて、いろんなことが体験できます。

進二　世界一周には行かれないけど、ここは豪華客船のようなものだと思っています。

晴江　夫が腰痛で辛そうにしていたら、友人が「ヨガがいいわよ」と、ヨガの先生を連れてきて、教室が始まりました。友人の夫を講師に太極拳のサークルも活動中です。

進二　古楽器の演奏、アイリッシュ音楽、歌声喫茶などの音楽系イベントや、ミュージカルや演劇の最終リハーサルもあって、生の芸術にも親しめます。電子ピアノ、ドラム、ベースなども揃っていて、大音量を出さなければ、OK。

―どんなつながりですか?

進二　DVDを見ながら、ゆっくりと体を動かす「10の筋力トレーニング」は、ご近所の高齢者の方たちに声をかけて始めました。毎週月曜の午後に、もう5年続いています。体操はもちろん、人と会って話をすることが大切。コロナで3カ月休んだのですが、対策をして再開したときの皆さんのうれしそうな顔がすべてですね。

晴江　参加費は1回100円。入り口に置いてある缶の中にいれてもらって、電気代や水道代に使っています。先日は、アフガニスタンで亡くなった中村哲さんの記録映画のDVD上映会もしました。

進二　認知症サポーターの講習会や地域の情報提供もしています。昼間のお茶も夜のパブもあって、一緒に遊ぶ仲間が広がっていくのが楽しみです。

晴江　40年以上前に出会った幼稚園のママ友、PTAや少年野球チームの仲間、ご近所などなど、人と人がつながっていきます。やりたいことを実現しようと作戦会議はワクワク。「一緒に楽しく年を重ねよう」が合言葉です。

たむら しんじ・たむら はるえ
恋ヶ窪ベースのお話し

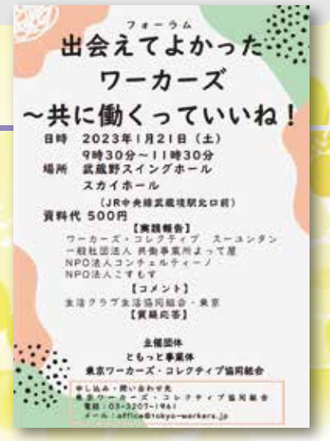
社会をつくり直す！

実践報告

File No.45

「共に働く」を広げるワーカーズ・コレクティブ

～生きにくさ、働きづらさを認め合って働く～



ワーカーズ・コレクティブは対等な関係で「働く」ことに向き合う組織です。性別、年齢、ライフスタイル、働きづらさなどの様ざまな違いを理解し合って「働く」ことで、誰もが対等につながり合える社会をめざします。2023年1月に開催された「共に働く」を考える集会の様子を東京ワーカーズのメンバーが報告します。

シンポジウム

1/17 「共に働く」ことをひろげる ～東京都ソーシャルファーム条例を検証する～

主催：東京都ソーシャルファームを考える会
後援：生活クラブ生協東京

『ともに働く』は支援･被支援の上下関係とは明確に違う

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合も参加する「ソーシャルファーム制度を考える会」では、東京都のソーシャルファーム制度について議論を重ね、都の担当者とも懇談の機会を持ってきました。同会が主催したシンポジウムが生活クラブ館で開催されました。会場参加 20 数人、ZOOM 参加 60 数人と、ソーシャルファーム制度に対する関心の高さが伺えました。

冒頭に、東京都産業労働局雇用就業部の担当者がソーシャルファーム制度の概要や今後の方針について説明しました。

基調報告「ソーシャルファーム制度について～その成立と問題点～」では、共同連の斎藤縣三さん（NPO 法人 共同連代表）がイタリアや韓国との比較から、東京都の制度の問題点を以下のように指摘しました。①就労困難者の認定が、障害がある人などに偏っており、様々な就労困難者を対象としていない。②行政補助金依存の事業で、事業力を高める支援制度ではない。③予備認証を受けた事業体を本認証に育てる援助がない。④ 5 年間の時限制度後の応援のしくみがないなどと指摘しました。全国の規範となる可能性のあるソーシャルファーム制度の改善・改革を要望しました。菰田レイ也さん（鳥取大学地域学部講師）は、実際に認証を受けた事業所の調査を踏まえ、株式会社など営利企業に比べ、非営利法人の認証が少ない実態を批判しました。

続く事例報告では、認証事業所である「企業組合あうん」、予備認証から認証事業所になった「NPO 法人わくわくかん」など 5 団体が報告を行いました。その中で「一般社団法人共働事業所よって屋」は、第 1 回に予備認証で応募し落選し、第 2 回は応募を見送っています。その経緯について、「応募の説明会に参加し、資料をほぼ整えたが、よって屋は就労困難者、障がい者など当人を特別に区別しないために参加できているのが特徴です。ソーシャルファーム制度の趣旨に合わないという意見があり、応募を見送りました」と、制度と事業所のめざすところの乖離について言及しました。

運用の実態を踏まえて、制度改善について提案を行いました。最後にまとめとして斎藤縣三さんから、「『ともに働く』とはそれぞれの役割を担いながら同じ仕事に取り組むことであり、支援・被支援の上下関係とは明確に区別される」という奥深い発言がありました。ソーシャルファーム制度で謳われている「ともに働く」ことの中身について考える良い機会となりました。

若畑　省二（東京ワーカーズ・コレクティブ理事）

NPO 法人わくわくかんの新規事業、コニュニティカフェと資源のリユース・リサイクルを行う「しげん Café わくわく」

全員同じ時給制で仕事を分けあう「よって屋」のメンバー

フォーラム

1/21 出会えてよかったワーカーズ ～共に働くっていいね!

主催：ともっと事業体
東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合

「ともっと事業体*」は、誰もが尊厳を持ち、当たり前に働く地域社会の実現をめざし、ワーカーズ・コレクティブの協同労働による柔軟な働く場の可能性を、さらに一歩を進めるために活動しています。フォーラムでは、働きづらい人たちと共に働く場をつくり出してきた事業所の中の4団体から働く人の声を聴くことができました。

*構成メンバーは、NPO 法人コンチェルティーノ、NPO 法人こすもす、一般社団共に働くワーカーズ えんこらしょ、スーユンタン、一般社団ぷろぼの工房、一般社団共働事業所よって屋、NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ協会

出会ってよかった！こんな働き方

「スーユンタン」現場で働く A さん

人のつながりで命が救われた

脳梗塞で倒れた時の経験から、通っていた教会の牧師さん、ケア者、スーユンタンメンバーや様々な人のつながりで命が救われた事など、つながりの必要性を思いました。今後、スーユンタンが運営する「資源カフェ」で珈琲を淹れ、みなさまに飲んでもらいたいです。

「よって屋」のIさん

こんな働き方があるんだ

よって屋で働き始めてから、社会にコミットすることだけを目指さなくても働けるところがあることに気づきました。共に働くという、こんな働き方があることを広げたいです。

「コンチェルティーノ」浅川さん（代表）

自分のペースで働く

参加しているメンバーのやりたい事を少しずつ事業化してきました。一人一人に合った働き方で安心して暮らせる場を地域に作っていきたいと思っています。

「こすもす」のKさん

助けられて今がある

子育て中に働き始め、育児のこと、困りごとなども含め「こすもす」に助けられて今があります。就労継続支援 B 型に移行後、経営危機を乗り越えなければならない事態に直面したことで、自身が主体的に働くようになりました。

働きづらさを抱えている人の多くとつながりたいのですが、小さな規模で事業を行っている各団体には、共に働く人の枠には制限があります。「一般企業が障害者枠で働く人をもっと増やすことができれば!」と思ったフォーラムでもありました。「事業の限界性は？」の質問には「毎日が限界超えです」との返答に会場では笑いが出ました。これからも働く現場の生の声を出していくことで、「共に働く」理解と連携が可能になると感じました。

堤　典子　（一社）ワーカーズ・コレクティブぷろぼの工房

福島の原発事故を忘れない！

オンライン交流会

東日本大震災から11年が経過しました。東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合では、2012年から「現場に立って考えよう」を合い言葉に、被災地訪問・交流を毎年行ってきました。

2022年10月12～13日の宮城県（東松島市、石巻市、南三陸町、女川町）への訪問に続いて、1月15日と29日には、オンラインで福島県三春町と須賀川市の被災者の方と交流をしました。

（共催：ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン、東京ワーカーズ・コレクティブ共済会）

大河原伸さん 多津子さん夫妻（三春町）

2023年1月15日（日）

大河原さんは福島県三春町で有機農業と反原発運動に取り組んでいます。野菜・果物などの青果物や、パンなどの加工品を販売するお店「野菜とパンの店えすぺり」を経営し、毎月15日を『放射能の日』と決めています。2011年3月15日に福島第一原子力発電所からの放射能が上空に流れて来たからです。

また、毎月22日は「ミヨベの日」と決めています。ルワンダ・ミヨベは、政府によって強制移住させられた人たちが住んでいます。大河原さんは、ミヨベの子どもたちを支援する活動に参加し、2018年3月22日にルワンダ・ミヨベを訪ねています。それを忘れないように、そして多くの人に知ってもらい、支援を広げようと寄付を呼び掛けています。

経営される直売所兼レストラン『えすぺり』は、エスペラント語で「希望する・期待する」という意味。「進む先に明かりが見える場所」との思いを表されたそうです。ご披露頂いた人形劇『太郎と花子のものがたり』は、シイタケ栽培をされていた仲間のお話。あの日の原発事故を風化させない、との思いで語り続けています。

原発事故以来、有機農業に取り組むがゆえの苦悩はどれほどのものであったでしょうか。それでも測定数値を公表して続けていくと決断された大河原ご夫妻の現状を伺って、取り巻く状況は厳しいものであることを再認識しました。消費者である私たちも正しい知識を持ち、理解し、協力していかなければという思いを強くしました。

最後に聞かせて頂いた歌の「あの日に戻れたら」という歌詞に、涙がこみ上げる思いです。

東京ワーカーズ・コレクティブ共済会　望月　美砂緒

「NPO法人ルワンダの教育を考える会」のマリールイズさんの「ミヨベ募金」を手渡しました

チラシなどの紙をちぎり絵にして作った紙芝居「ミヨベの風」

有馬克子さん（須賀川市）

2023年1月29日（日）

有馬さんは、ヴィーガン料理の「銀河のほとり」（心と体と地球のための穀物菜食レストラン）を経営し、身体に優しいメニューを提供しています。各種のイベントを企画し、人をつなぐ活動にも取り組んでいます。

東日本大震災から11年経った今、まだ何も終わっていない、終わっていないどころか汚染水の海洋放出などの新たな問題にも直面していることを改めて考えさせられました。そして、汚染水の海洋放出が六ヶ所村核燃料再処理工場の始動につながることも教えて頂きました。

次の時代を生きる若い世代に、少しでも安心して生活できる日本を残していくことを考えたいと思いました。

同じ食に携わる仕事をしているので、有馬さんが選んで使われている食材や食材の効用についてもお話頂き勉強になりました。今後に生かせればと思います。

有馬さんの笑顔と美味しそうなお料理を見ているだけでパワーを頂けました。

須賀川の「銀河のほとり」にも是非訪れたいです。

（企）ワーカーズ・コレクティブグレイン　松村　香織

有馬克子さん

自家製の米、野菜、味噌を中心に地元の新鮮な食材と、無添加の調味料を使用した料理

お知らせ

～震災、原発、子ども、舞台～12年目の今を語る集い

日　時： 3月18日（土）13：30～
場　所： 東京芸術座アトリエ（西武新宿線「上井草駅下車」徒歩7分）
参加費： 任意のカンパ
申　込： たたじゅん企画（**TEL:090-3965-8047**）

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合情報誌「せれくと」No.90

〒160-0021　東京都新宿区歌舞伎町2-19-13　ASKビル5階
TEL:03-3207-1941　FAX:03-3207-1945
E-mail　office@tokyo-workers.jp
http://www.tokyo-workers.jp

発行日　2023年2月28日
編　集　ワーカーズ・コレクティブ　企画編集・のもの
年間購読料　600円（年4回発行）